

とよ・たち美肌通信

2月号 vol.103



♡このの♡

♡さや♡

February

とよたち 美肌通信 2月号 vol.103

今月号の表紙は、大きな雪だるまさんがとってもかわいい!! 暖かそうなマフラーと素敵なリボンがお似合いですね♡♡

ダンスや前まわりなど体をうごかしたり、ぬいぐるみであそぶ事が好きな女の子がお姉ちゃんと一緒に描いてくださいました! ありがとうございます😊

院長はじめ スタッフ一同
バリエーション感謝いたします。



2019年元旦は、昨年の反省から始まった。
一人心を鎮め「妬み 僻み 怨み 憎み」これらの気
持ちを持たない様にすると考えた。この為には
今年一年をどう生きるべきか。それには心を高み
に置かなければならない。

我々の身体を構成するのは、臓器・組織・細胞
に至るまで、一つとして自らが作り出したものは、何一つ
無い。その元は両親から先祖から、宗教的に言えば
神仏から賜り先祖代々から脈々と受け継がれたもの
ばかりである。自分の身体は一時的に預かったに過
ぎない。いずれ天に返さなければならぬ。返す時
までに何をしなければならぬのか。過去に惜福・
分福・植福という言葉を感じたことがある。明治の小
説家 幸田露伴が自著で記した幸福三説である。
自分に舞い込んで来た福を全て使い切らずに天に預
けておく。いざという時にその福を分け与える。そして、
常に先々(将来を見越して)福の種を蒔く様に正しい努
力を続ける事で天も認めて下さるという考え方である。
少しでも近づきたいと思った次第である。

人生を少しづつでも前進させていきたい、高めて
いきたいと切に願う。その為には何か必要か。
そう考える時が少なからずある。最近思うことは、
謙虚にして驕らず努力をしなければならぬ。そして
人生はその一瞬一瞬にして様々な思いを抱く訣で、
その思いが様々な原因を作っていくのだということが分か
てきた。従って良い事を思えば良い原因を作るし、その
逆も然りである。人生を高めるにはどのような事を
抱くかが重大である。

もう一つは、自分にとってまた遥か遠い境地であるが、
自分の心と体が一体になることが必要であると思う。
稲森和夫氏はこう述べている。

宇宙には森羅万象全てのものを良い方向に生かそう
とする、そういう愛の心 思いやりの心が充満して
いる。ですからその宇宙の心に合った思い、つまり
愛の心、優しい思いやりの心を抱いて行動を
すれば、必ず宇宙は手助けをしてくれると思って
やってきた。

いかにも人生を高めた人の言葉には未到の境地
が感じられる。

考之方次が、同じ人間として精進すると年頭に誓う。
院長、拝